

リベラル21

私たちは護憲・軍縮・共生を掲げてインターネット上に市民のメディア、リベラル21を創った。

2013.01.28 “開かれた総選挙総括”を行い、革新政党の古いイメージを払拭し、広範な護憲勢力を再結集しなければならない、革新政党の不振と衰退は目を覆うばかりだ(6)

～関西から(90)～

広原盛明(都市計画・まちづくり研究者)

率直に言って、2013年参院選において革新勢力が改憲発議を阻止するために必要な121改選議席の1/3(41議席)を獲得することはもはや絶望に近くなった。自民・公明・維新各党と民主党内の改憲勢力を合わせると、議席数の2/3はおろか3/4を突破するかもしれない勢いだからだ。とすれば、革新勢力は参院選はもとより参院選後の新しい政治情勢を考慮に入れた新たな“護憲戦略”を組み直さなければならない。

参院選後の「新しい政治情勢」とはなにか。それは、日本国憲法第96条第1項の規定によって憲法改正の是非を問う“国民投票”に政治決戦の舞台が移るということであり、有権者の過半数の支持を得られなければ憲法9条が否定されると言うことだ。中曽根元首相の言う「戦後体制の総決算」の時期がまさに目前に迫っているいま、革新政党の取るべき道は広範な護憲勢力の再結集によって改憲阻止に立ち上ること以外に選択肢は残されていない。

私は憲法9条を守ってきた政治勢力の構造は、(1)護憲を党是とする社民党や共産党などの「革新政党」、(2)これら革新政党を支持する「革新勢力」、(3)革新政党を支持しないが、憲法9条を否定することには反対する「護憲勢力」の3重構造で構成されていると理解している。しかし、革新政党はせいぜい革新勢力の範囲でしか政治活動・選挙活動を展開せず(できず)、広範な護憲勢力を結集する戦略を打ち出せなかった。僅かに「9条の会」が護憲勢力の一部を迎え入れたただけだ。

個々の革新政党の活動が限界にきていることはすでに述べた。またこのような活動を続ける限り革新政党は消滅の道をたどる他はなく、憲法改正を阻止し得ないことも明らかになった。ある読者はこの状況を実面的に確かなコメントで指摘している(2013年1月15日の拙稿に対して)。

「このままいけば、次回の参院選で社民党は消滅、共産党は去年の衆院選における社民党並みの水準まで後退する可能性がある。おそらく共産党もそれはよくわかっているが、支持者や党員を落胆させたくないために前回の総選挙と直近の参院選を比較したに違いない。共産党の退潮は政策上の優位さを生かし切れずに、メディアの意図的排除と「維新」、「みんな」、「未来」への誘導、若い世代への浸透不足、リベラル革新の共同作戦の欠如、活動家の高齢化、一部を除く立候補者の力量不足などによって生じたもので、その構図が変わらなければ次回参院選でも同じことが起こるであろう。支配者側は革新の退潮をよくわかっているの、民主党の失敗の間隙をついて、ここぞとばかりにさまざまな潮流(「維新」の極右主義、「みんな」の改良主義など)を動員して、改憲をゴールにした戦後民主主義体制の根本的改廃への総攻撃をかけてきている。」

ならば、革新政党は革新勢力はもとより広範な護憲勢力に働きかけて“護憲戦略”を再構築するしかない。そのためのまず第一歩として考えられるのは、今回の選挙総括と次期参院選挙方針を党内だけでなく国民に対して“開かれた形”で行うことだ。具体的には、(1)公開討論会形式にして革新政党の選挙総括や参院選挙方針の問題点を有権者の間で広く議論する、(2)「外部第三者委員会」といった形で党外に選挙総括を依頼し、党独自の総括と対置させながら公開討論で問題点を探り出す、(3)社民党・共産党やその他の政治団体が合同討論会を組織し護憲戦略のデザインにつ

0248619

プロフィール



護憲・軍縮・共生

Author:tiger21

リベラル21について

Amazon商品一覧【新着順】



ジャーナリストの現場—もの書きをめざす人へ



宋家王朝—中国の富と権力を支配した一族の物語(上)
(岩波現代文庫)(岩波現代文庫 社会 196)



宋家王朝—中国の富と権力を支配した一族の物語(下)
(岩波現代文庫)(岩波現代文庫 社会 197)

いて討議するなど、とにかくあらゆる形を追求してみることだ。

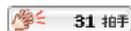
だがその場合の議論の原点は、あくまでも「国民投票において改憲を阻止する」ことに置かれなければならないだろう。「革新政党の再生のために何をするか」ではなく、「改憲阻止のために革新政党は何をしなければならぬか」ということを議論の中心に据えなければならない。共産党に関して言えば、党の「成長・発展目標」よりも「護憲勢力の再構築」を上位に位置づけることが要求される。要するに個々の革新政党の眼を通して政治情勢・選挙情勢を見るのではなく、護憲勢力全体の眼から現下の危機的状況に立ち向かうと言う姿勢を貫くことが求められているのである。

私は、社民党や共産党が消費税・原発・TPP問題などに関して国民生活を守る政策を掲げながら選挙戦で敗れたのは、一言で言って“政党としての存在感”が無かった(無くなった)からだと考えている。政党は政策を基軸に組織される政治集団であるが、正しい政策を掲げれば自動的に有権者に支持されるというほど政治情勢は甘いものではない。国民に「いいことは言うが何もできない」と思われている革新政党は、選挙戦で勝利することもできないし、政権を獲得することもできない。

革新政党の“存在感”や“リアリティ”はどこからどのようにして生まれるのか。それは政策が国民の要求や期待に応えるものであると同時に、政党が政策を実現できるだけの力量(実行力)を備えていること、あるいはその可能性があることを国民・有権者が認めたときのことだ。社民党や共産党がいくら改憲反対を唱えても、それが個別政党の動きにとどまる限り国民は信用しない。「言うだけで何もできない」ことがわかっているからだ。

とすれば、革新政党が存在感を示すには、国民・有権者に対して改憲を阻止できる政治的枠組みを示さなければならない。そして改憲阻止の国民投票に勝利できる体制をつくらなくてはならない。私個人としては個別政党の枠を超えた「護憲民主政府」(仮称)の樹立以外に方法はないと考えているが、当面は「準備委員会」や「検討委員会」のレベルでとにかく議論をスタートさせて改憲阻止の世論をつくり、広範な護憲勢力の期待に応えていくことが重要だ。

「敵を知り己を知らば百戦危うからず」(孫子の兵法)という言葉があるが、もはや事態はその域を超えている。率直に言えば、「身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ」というのが実情に近い。社民党や共産党が果たして「身を捨てる」ほどの決意と覚悟を示すのか、それともこのままずるずると後退して消滅の道をたどるのか、革新政党はいま歴史的分岐点に立っている。



Category (政治) | Comment (4) | TrackBack (0) | ▲

<< 大河ドラマの筋書きを超え、落城後の会津の女の苦難の軌跡を描く | Home | “日本のサッチャー”荒井なみ子さんを偲ぶ >>

Comment

広原盛明様の記事に驚きを覚えました。→ 議席数の2/3はおろか3/4を突破するかもしれない勢いだからだ。

今後どうしたら国民投票を勝ち得るかですが、こうなれば「護憲民主政府」により、国民一人一人に、熱情を込めて訴えるしかないと思います。たとえ一人でも、分ってもらえるならば.....全力で話しかける姿が、魂を呼び起こすと思います。今後半年の期間、全国規模でそのキャンペーンを展開するしかないと思います、できれば今すぐにも.....

ほとけの提言 (URL) 2013/01/28 Mon 17:33 [Edit]

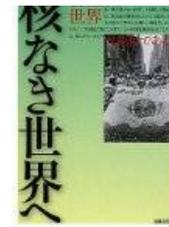
このコメントは管理人のみ閲覧できます

() 2013/01/28 Mon 18:08 [Edit]

このコメントは管理人のみ閲覧できます

() 2013/01/28 Mon 22:35 [Edit]

一 当面は「準備委員会」や「検討委員会」のレベルでとにかく議論をスタートさせて改憲阻止の世論をつくり、一 のご意見に対して再び提言します。参院選までには、残り5ヶ月ほどしかあり



核なき世界へ



台頭中国の対外関係 (学習院大学東洋文化研究叢書)



原田流ハンゲルノート—超入門読む!書く!話す!

最近の記事

護憲・反原発勢力は選挙協力を
——共産党に残された道

(04/07)

国際支援で経済苦境を突破できるか (04/06)

イラク戦争の検証と沖縄 (04/05)

「信長を英雄視しない」と宣言した

歴史書に多い問題点 (04/04)

日本語、こんな言い方・書き方っ

であるのかな? (04/03)

はたして「1票の格差」は悪なの

か。 (04/02)

原爆の怖さと被爆体験を語り尽

くす (04/01)

本日休載 (03/31)

原因と結果 (03/30)

山里にも春がきた (03/29)

最近のコメント

コメントは承認制です。すべてが
掲載されるとは限りません。

さすらい日乗:映画作家の想像力

—黒澤明の原発観 (04/05)

バジ@ネオ・トロツキスト: 護憲

第3極の形成のためには、“国共

合作”を目指すくらいの方針大転

換が必要だ、革新政党の不振と

衰退は目を覆うばかりだ(11)

アメリカ表明 (04/07)

ジロツカーの世界征服計画:第62

回 日本マンガバンドン屋

[四ノ宮アツシのブログ](#)

(03/16)

再出発日記:金子家のこと、ある

いはベトナムの写真 (02/11)

プログニュース:宇宙基本法が施

行、1年後メドに内閣府「宇宙局」

設置へ (08/27)

架空政党:進歩民主党:沖縄施策

(04/19)

オープン・デモクラシー:汎チベット

民族主義の時代の到来 (04/18)

きまぐれな日々:チベット騒乱の報

道を受けて、中国について思うこ

と (03/18)

カテゴリー

福祉 (10)

書評 (183)

エッセイ (176)

映画・演劇 (67)

環境 (34)

メディア (45)

未分類 (26)

社会 (167)

政治 (356)

経済 (127)

絵画 (56)

詩 (31)

法律 (5)

2011年09月 (31)

2011年08月 (33)

2011年07月 (35)

2011年06月 (31)

2011年05月 (34)

2011年04月 (34)

2011年03月 (39)

2011年02月 (30)

2011年01月 (31)

2010年12月 (32)

2010年11月 (30)

2010年10月 (31)

2010年09月 (32)

2010年08月 (33)

2010年07月 (34)

2010年06月 (30)

2010年05月 (31)

2010年04月 (30)

2010年03月 (31)

2010年02月 (28)

2010年01月 (31)

2009年12月 (31)

2009年11月 (30)

2009年10月 (31)

2009年09月 (32)

2009年08月 (38)

2009年07月 (34)

2009年06月 (30)

2009年05月 (31)

2009年04月 (30)

2009年03月 (31)

2009年02月 (29)

2009年01月 (34)

- [2008年12月 \(33\)](#)
- [2008年11月 \(30\)](#)
- [2008年10月 \(32\)](#)
- [2008年09月 \(32\)](#)
- [2008年08月 \(31\)](#)
- [2008年07月 \(31\)](#)
- [2008年06月 \(30\)](#)
- [2008年05月 \(31\)](#)
- [2008年04月 \(30\)](#)
- [2008年03月 \(33\)](#)
- [2008年02月 \(25\)](#)
- [2008年01月 \(33\)](#)
- [2007年12月 \(27\)](#)
- [2007年11月 \(23\)](#)
- [2007年10月 \(20\)](#)
- [2007年09月 \(19\)](#)
- [2007年08月 \(23\)](#)
- [2007年07月 \(19\)](#)
- [2007年06月 \(22\)](#)
- [2007年05月 \(23\)](#)
- [2007年04月 \(17\)](#)
- [2007年03月 \(10\)](#)

ブロとも申請フォーム

[この人とブロともになる](#)

ブログ内検索

RSSフィード

- [最新記事のRSS](#)
- [最新コメントのRSS](#)
- [最新トラックバックのRSS](#)

リンク

- [自由のための「不定期便」](#)
- [安原和雄の仏教経済塾](#)
- [「ユニオン」と「労働ニュース」アーカイブ](#)
- [人生の奥付ROAD TO THE EXPERIENCE OF KOREA](#)
- [「老いの一筆」](#)
- [長瀬隆のホームページ](#)
- [管理者ページ](#)
- [このブログをリンクに追加する](#)

